

(1) 同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

高一の夏休みに「看護学部のある女子大に行きたい」という単純な理由で同志社女子大学のオープンキャンパスへ訪れたのですが、校舎や学生さん方の雰囲気はもちろん、授業時間外にも奥校の学習がおさえられているプラクティカルサポートセンターがあることや看護師以外にもいろんな職業に就ける可能性が広がることに魅力を感じたため。

(2) 一般入試対策としての受験勉強の進め方について。

〔1学期〕

高2の9月頃から受講していた塾の生物の講座を受けると共に、シス単・ヴィンテージと自分で覚え始めました。（しかし、部活の引退が6月だったということもあって、自分の「好きなもの」である英語と生物の勉強しかしていませんでした。もちろん、直前期に比べると、勉強時間はとて少なく、自分の苦手分野もまだつかみきれませんでした。4月頃から塾で現代文の講座を受け始め、「今のままじゃたらあかん!」という危機感が少し生まれるようになりました。

〔夏休み〕

学校の生物の補習に参加し、授業内で配布されたプリントやノートの内容と資料集と塾の映像授業と照らし合わせ作業を2周ほど行いながら、基礎力を固めるためにリードLightノートを2周くらい解いて苦手分野を見つけていきました。この頃から現代文の単語や漢字の学習、英語のセンター試験レベルの長文演習を始めました。ほとんどの時間を塾で過ごしていたので憂うつになる時もありましたが、部活の同期とごはんに行ってお互いを励まし合ったり「頑張ろうな!」と声をかけ合ったり、当時の第一志望校だった大学のオープンキャンパスに参加したりレシートでモチベーションを維持できたと思います。

〔2学期～入試直前〕

9月下旬からは毎日していた生物の勉強を週2、3回に減らして11月中旬の公募推薦に向けて現代文と英語の過去問や問題集を解くことに集中しました。また、公募推薦が終わったあとは「良問問題集」を「ゴロゴロ」と一緒にやり込みました。生物基礎の苦手分野克服も兼ねてベネッセが出版している生物基礎の問題プリントを学校の授業でもらっている友人がいたのでその子から授業内で配られたプリント類を借りてもらい、過去問や問題集の中からなかったところをノートにまとめていきました。「同志社女子大学を受験しよう」と決めた12月から現代文・英語・生物の過去問4年分を解いて同志社女子大学の出題傾向をつかめるように努めました。入試直前に教室がビロビロにモードになることもありましたが、休み時間や登下校中に友人と情報交換や何気ない会話をすることが私のエネルギーチャージにとって欠かせない大切な時間でした。

(3) この一年間の受験生活において、受験勉強と高校の行事やクラブ活動の両立、健康面での注意、テレビやスマートフォン等との付き合い方、スランプとその対処法について。

担任の先生が「楽しむ時はめいっぱい楽しみなさい!」と言って下さったこともあり、部活もイベントも全て楽しめました。部活は高2の秋から平日週2回も欠席していたので土日の活動を尺読したくない一方で、塾の授業も大切にしたいと思っていました。引退までは部活優先のため、塾の授業時間を遅らせてその分電車内で単語帳やノートを見直すなどして空き時間を大切にしようと思えました。また、スマートフォンは好きなアーティストの音楽を聴くなどリラックスするための手段としてだけでなく、ヴィンテージのイデオムや受験生に向けて喝を入れるような言葉を吐いてくれるアカウントのツイートを見るためにも使っていたので、使用制限をすることはありませんでした。模試の成績が悪かったり、勉強に行き詰った時はオープンキャンパスでもらったグッズやパンフレット、同志社女子大学のツイッターを見て合格して同志社女子大学の学生になった姿をイメージして乗り越えました。

(4) 受験を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

大学受験は選択肢が沢山ある分、沢山の悩んで沢山の涙するかも知れませんが、1つずつ新しいステップを踏んでいくうちに自分の考え方が変わるような発見や出会いも沢山あると思います。自分の夢を周りの人に反対されても、絶対諦めが心配してくれてはくれます。「無理だ」と決めつけて自分の可能性をせばめてしまうなんても、たいたいと思うので、最後に「やりきた!」と伝えるように毎日大切にしてください。